

38. ひさかたの あまぢは遠し^{とほ} なほなほに

家にかへりて なりおしまさに (山上憶良)

39. みよしのの 山の秋風 さよふけて

故郷寒く^{ふるさと} ころもうつなり (参議雅経)

40. むらさめの 露もまだひぬ まきの葉に

霧たちのぼる 秋のゆふぐれ (寂蓮法師)

H 別紙写真図版の高野切三種又は、関戸本古今集を半紙に臨書しなさい。

かな古筆臨書の原則は 原寸で行どりは変えない。

右上に硬筆か毛筆細字で釈文をひらがなで記入すること。